

市内活動グループ訪問記

土の会の勉強会に参加して



8月2日午前10時、ぼらんていあ取材のため「特定非営利活動法人相模原市難聴者協会・土の会」の勉強会に参加した。土の会の勉強会は毎土曜日に開催されるが、8月は9日、16日が夏季休暇のため急遽台風明けの2日に参加した。

当日の土の会の参加者は16名であったが、市や県から派遣の情報保障者を入れ24名であった。配置は部屋の一番奥の左に『要約筆記者』4人と壁にはそのためのスクリーン、次に「」の字型の机（6個）には土の会会員16名と『もうろう者の介助者』1名が座り、最後の1列には『もうろう介助者』のパソコン要約筆記者3名が座った。

***情報保障とは、市や県が視覚障がい者や聴覚障がい者のために情報保障する制度で、**

- ・聴覚障害者のために市は要約筆記者を派遣している。
- ・視覚・難聴者のために県は通訳・介助員を派遣する。



左から
小山さん、土屋さん、佐藤さん

まず、司会の小山さんからぼらんていあ取材についての紹介と10月予定のバス旅行の案内があり、その後、健聴者の一さんにより1時間目の勉強が始まった。

まず、「お疲れさま」「すみません」「手話

「上手」「下手」「練習」「だんごさん」などの手話を示しその単語の練習の後、一人ひとりがその単語を使って文章を作り発表し、それを読み取る人が立つて読み取り発表する（これを繰り返して16名が文章の発表と読み取りが終わり1時間目を終了した）。

勉強会終了後、土屋和代理事長、小山幸子副理事長、佐藤美津子副理事長に残っていたとき「土の会」の事業内容、設立の経緯や皆さんの入会の動機などについてお聴きました。

◆「土の会」は難聴者の自立と社会参加を目的に平成元年に設立され、難聴者の土屋さんと小山さんは手話を勉強したい、みんなと交流し情報交換したいとの思いで参加されたそうだ。お一人とも「1週間分の気持ちを発散する場！」「言い間違えても言いたいことが言える」「聞いてもらえると」「など」この会をとても大切にされていることが伝わってきた。

そのうえは勉強中の2時間、笑いが絶えず、時には言い間違えたり、すぐに手話を読み取れなかったりすることもあったが、お互いに教え合いながら、とても穏やかな雰囲気だった。

副理事長の佐藤さんは要約筆記者でもあり、長年この会に携わっていて皆さんの「コミュニケーション」のお手伝いをしている。手話もお上手で、手話を始めたきっかけがうかつと、ボランティア講座で録音ボランティアの抽選に漏れ、手話を始めたのよこのこと。3人にお話をうかがっている間長年一緒に活動なさっている様子が伝わり、人と人のつながりにとても心が温まる思いがした。

(恒藤・高橋)

もうろう介助者のパソコン要約筆記者



- 【名称】：特定非営利活動法人相模原市難聴者協会・土の会
【会員】：26名 [難聴者16名、視覚・聴覚障害者1名、健聴者9名(ボランティア)]
【役員】 理事長：土屋和代 副理事長：小山幸子・佐藤美津子(健聴者)
【事業内容】：活動内容

1. 難聴者の日常に必要な手話の勉強とコミュニケーションの悩みを話しあう場
2. 年間事業として、講演会、手芸教室、料理教室、日帰り旅行、スポーツ教室など
3. 勉強会は正月休み、夏休みを除き、原則、毎土曜日10時から12時
4. 情報保障は必ず用意します(話の内容をスクリーンに文字で表すなど)
5. 市主催の要約筆記者養成講座への協力
6. 社会福祉協議会が担当している小中学校福祉体験講座への協力

